

平成25年度「読書に関する調査」の結果

平成26年3月
福島県教育委員会

【調査結果概要】

平成25年11月の1か月間における平均読書冊数は、小学生は10.9冊、中学生は2.6冊、高校生（高校生のみ12月実施）は1.5冊であり、昨年度調査と比較すると、小学生は0.5冊増加し、中学生は同じ、高校生は0.1冊増加した。

「読まない」と回答した小学生の割合は1.5%、中学生の割合は16.3%、高校生の割合は49.0%であり、昨年度調査と比較すると、小学生は0.3ポイント、中学生は0.7ポイントそれぞれ減少し、高校生は0.5ポイント増加した。

平成16年度からの調査結果の推移を見ると、小学生の読書量は4.2冊から10.9冊へと9年間で倍以上増加してきており、中学生についても1.6冊から2.6冊へと約1.5倍以上となっている。また、高校生の読書量はこれまでで最も多い1.5冊となった。

「読まない理由」の最も大きな割合を占めたのが、小学生、高校生が「マンガ等が楽しい」、中学生は「勉強等で忙しい」であり、次に続いているのが、小学生は「遊びが楽しい」、「ゲームが楽しい」、中学生は「マンガ等が楽しい」、「本が嫌い」、高校生は「部活動で時間がない」、「読まなくても困らない」であった。また、読書のきっかけについて、小学生の大半が「学校の図書館で見つけた」と回答しており、中学生及び高校生は「本屋で見つけた」と回答した割合が高い。

1か月間の平均読書冊数は、小学生は調査開始以来最高（平成23年度と同じ値）であり、また、1か月間に1冊も読まない小学生も調査開始以来最低の割合となった。いずれの学校種においても、これまでの着実な取組が成果をあげており、今後は学校・学級の子どもの実態に即した読書指導の充実と学校図書館の有効な活用について、より具体的で豊かな取組が求められる。

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く考えるなど、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

県教育委員会においては、平成22年3月に「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」を策定し、様々な施策を展開しているところであるが、これらの施策を評価し、今後の施策に生かすため、本県児童生徒の読書に関する調査を実施している。

- ・第1回調査 : 平成16年10月実施
- ・第2回調査 : 平成18年4月実施
- ・第3回調査 : 平成19年11月実施（※以後、毎年11月に実施することとする）
- ・第9回調査 : 平成25年11月実施（今回実施）

※ 高等学校においても12月に同様の調査を実施した。（平成21年度から）

(2) 調査項目

- ア 各学年における児童生徒の1か月の読書冊数（学校及び家庭等での読書冊数の合計）
- イ 読書しない理由に関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）
- ウ 読書するきっかけに関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）
- エ 本を手に入れた方法に関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）

(3) 調査対象校及び調査人数について

- ア 調査対象校：県内すべての公立小・中学校（分校は除く）
及びすべての県立高等学校（1、2年生、分校を含む）
- イ 調査人数：各学年1学級を選定する。（すべての児童生徒に調査することも可）

小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
調査人数	11,293	11,247	11,869	12,339	12,570	13,075	72,393

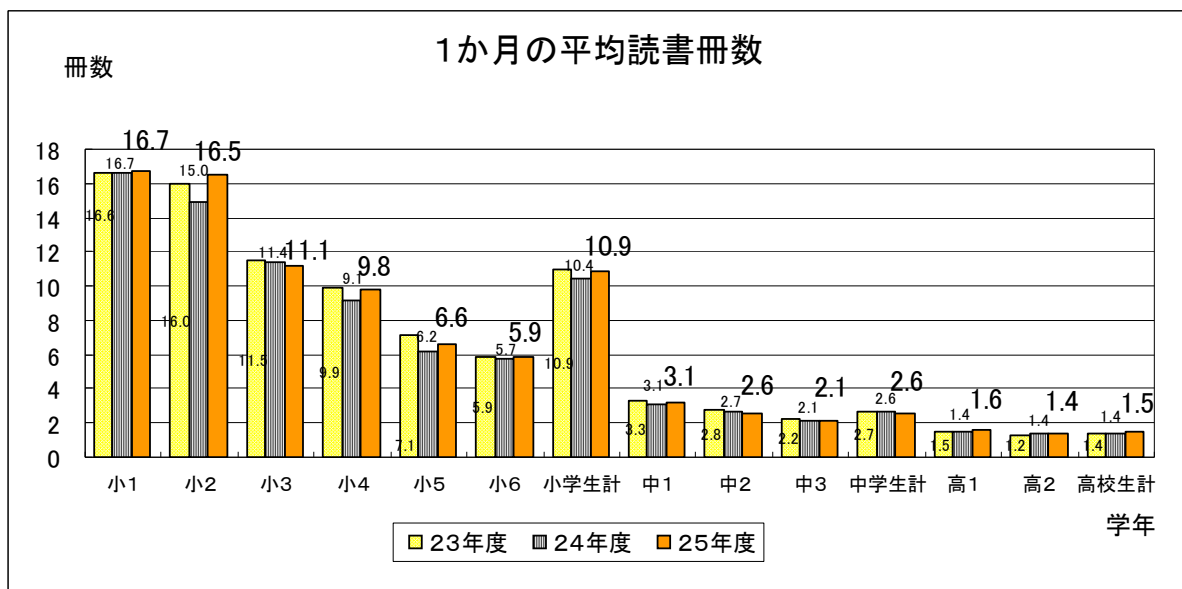
中学校	1年生	2年生	3年生	合計
調査人数	8,739	9,055	9,344	27,138

高等学校	1年生	2年生	合計
調査人数	4,160	4,015	8,175

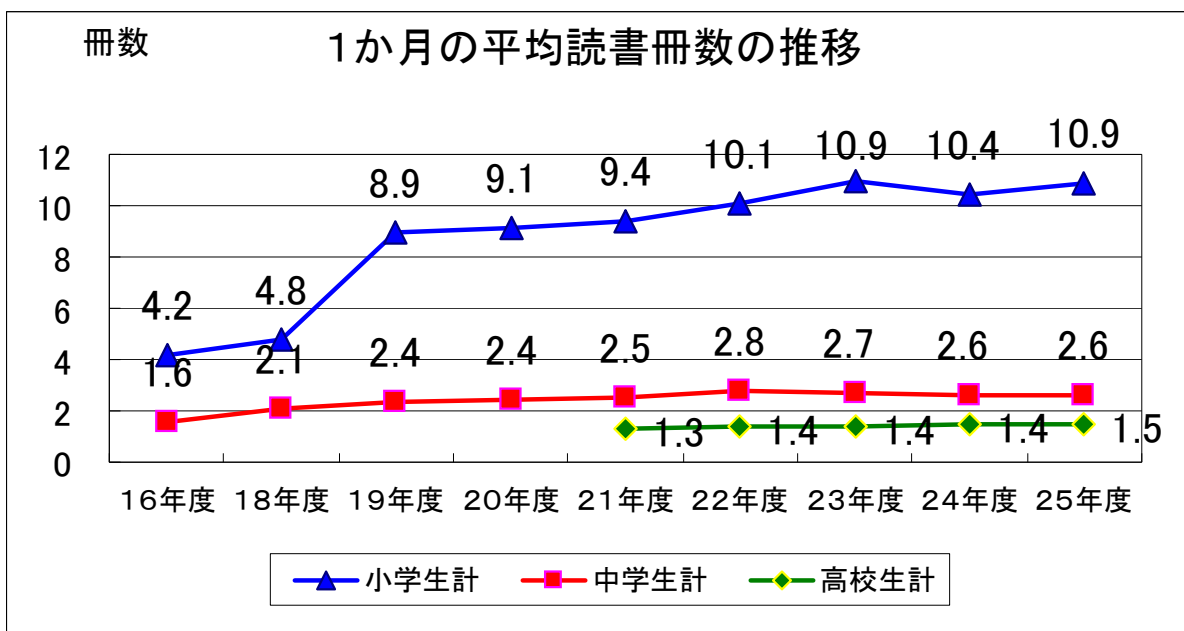
2 1か月の平均読書冊数について（【グラフ1】及び【グラフ2】参照）

- 平成25年1月調査における小学生全体の1か月の平均読書冊数は10.9冊、中学生全体の1か月の平均読書冊数は2.6冊、高校生全体の1か月の平均読書冊数は1.5冊であった。昨年度調査と比較すると、小学生は0.5冊増加し、中学生は同じ、高校生は0.1冊増加した。
- 1か月の平均読書冊数は、小学校1年生の16.7冊が最高であり、小・中・高校生ともに学年が上がるにしたがって減少している。
- 小学生全体では、「8冊以上読んだ」と回答した児童の割合が48.7%（昨年度は47.6%）で最も高い。中学生全体では、「1冊読んだ」と回答した生徒の割合が24.0%（昨年度は23.5%）で最も高く、「2冊読んだ」と回答した生徒の割合が22.2%（昨年度は22.0%）でこれに続いている。高校生全体では、「読まない」と回答した生徒の割合が49.0%（昨年度は48.5%）で最も高く、「1冊読んだ」と回答した生徒の割合が21.3%（昨年度も21.3%）でこれに続いている。

【グラフ1】



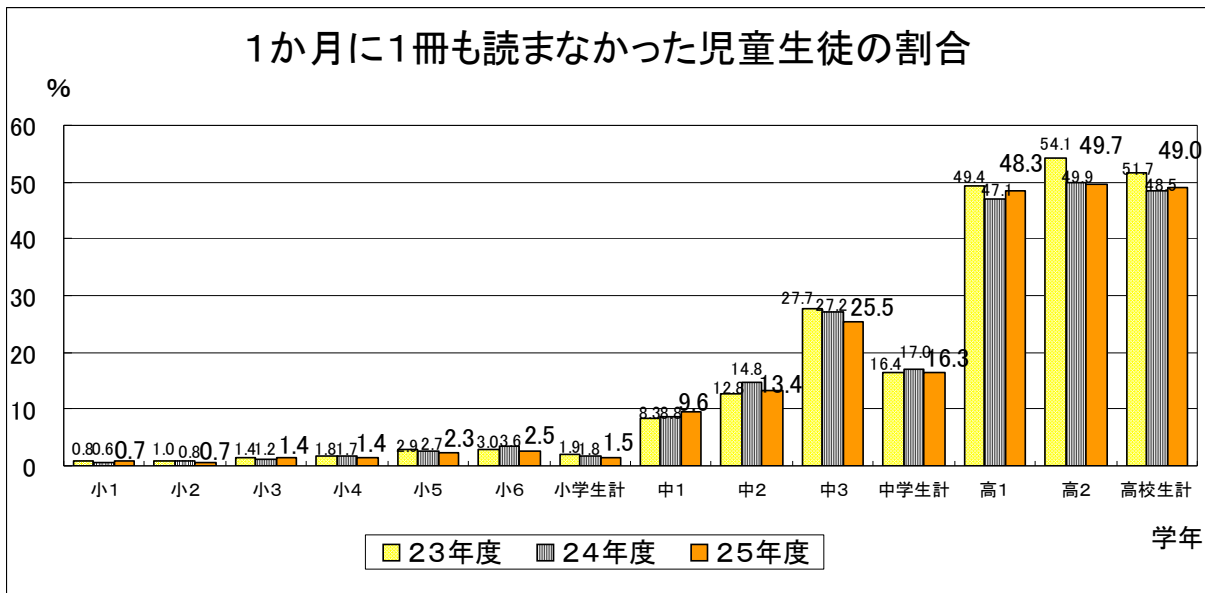
【グラフ2】



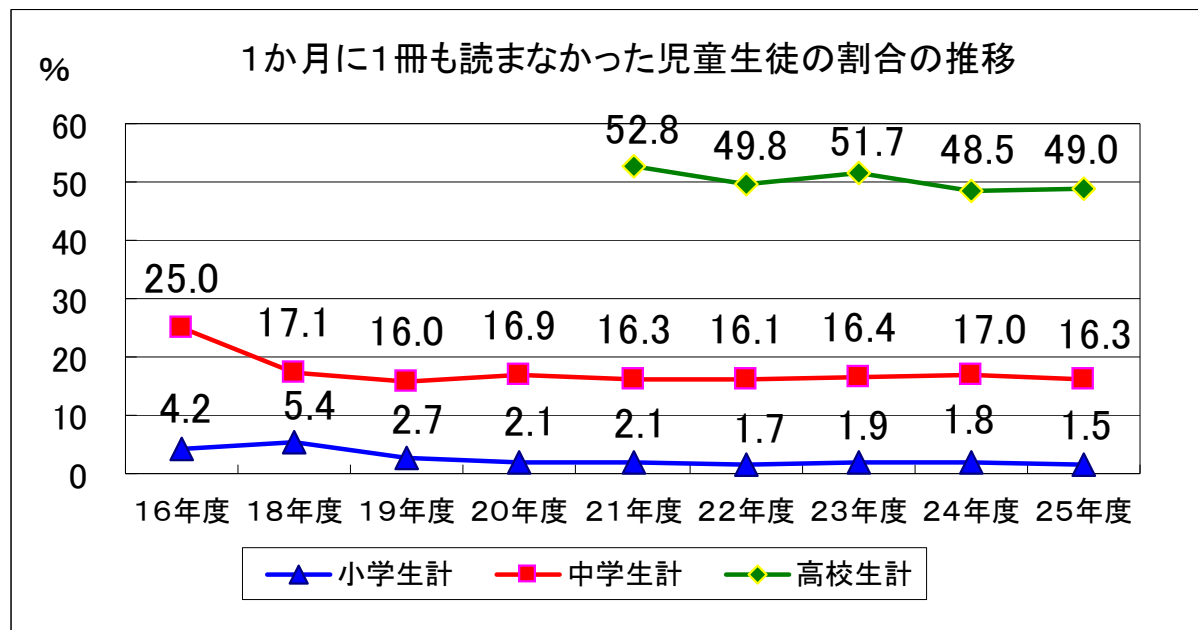
3 「読まない」と回答した児童生徒について（【グラフ3】及び【グラフ4】参照）

- 「読まない」と回答した児童生徒の割合は、小学生が1.5%、中学生が16.3%、高校生が49.0%であり、昨年度調査と比較すると、小学生は0.3ポイント、中学生は0.7ポイントそれぞれ減少したが、高校生は0.5ポイント増加している。
- 「読まない」と回答した児童生徒の割合は、小学校1・2年生が0.7%と最も低く、高校2年生が49.7%と最も高い。小・中・高校生ともに学年が上がるにしたがって「読まない」と回答した割合が高くなっている。
- 「読まない」と回答した小学生の「読まない理由」については、「マンガ等が楽しい」と回答した割合が21.8%で最も高く、「遊びが楽しい」が16.4%、「ゲームが楽しい」が15.1%と続いている。
- 「読まない」と回答した中学生の「読まない理由」については、「勉強等で忙しい」と回答した割合が25.3%で最も高く、「マンガ等が楽しい」が22.7%、「本が嫌い」が9.8%と続いている。
- 「読まない」と回答した高校生の「読まない理由」については、「マンガ等が楽しい」と回答した割合が20.3%で最も高く、「部活動で時間がない」が18.5%、「読まなくても困らない」が11.4%と続いている。

【グラフ3】



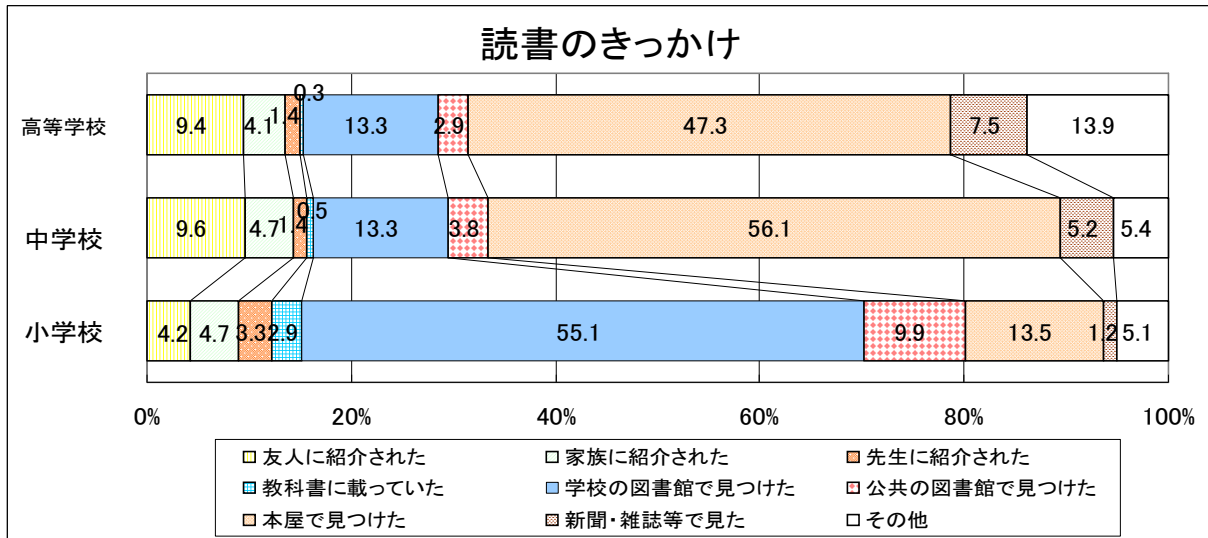
【グラフ4】



4 「読書のきっかけ」について（【グラフ5】参照）

- 小学校では、「学校の図書館で見つけた」と回答した児童の割合がすべての学年において最も高く、小学生全体では55.1%を占める。続いて「本屋で見つけた」と回答した児童の割合が13.5%、「公共の図書館で見つけた」と回答した児童の割合が9.9%となっている。
- 中学校では、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合がすべての学年において最も高く、中学生全体では56.1%を占める。続いて「学校の図書館で見つけた」と回答した生徒の割合が13.3%、「友人に紹介された」と回答した生徒の割合が9.6%となっている。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合が最も高く、高校生全体で47.3%を占めており、「学校の図書館で見つけた」が13.3%、「友人に紹介された」が9.4%となっている。
- いずれの学校種においても「学校の図書館で見つけた」の割合が昨年度よりも高くなっている。

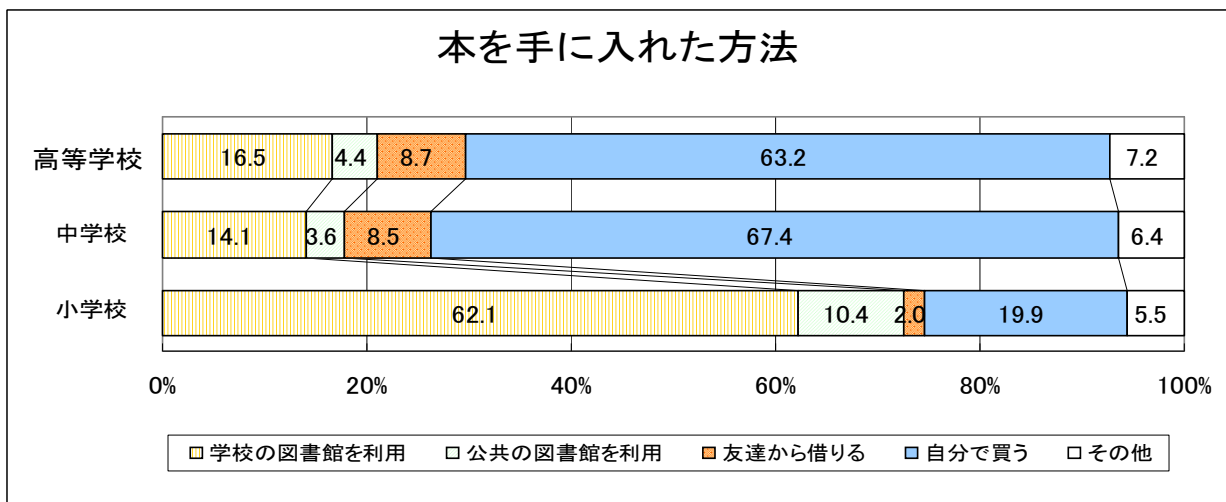
【グラフ5】



5 「本を手に入れた方法」について（【グラフ6】参照）

- 小学校では、「学校の図書館を利用」と回答した児童の割合がすべての学年において最も高く、小学生全体では62.1%を占める。続いて「自分で買う」と回答した児童の割合が19.9%、「公共の図書館を利用」と回答した児童の割合が10.4%となっている。
- 中学校では、「自分で買う」と回答した生徒の割合がすべての学年で最も高く、中学生全体では67.4%を占める。続いて「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が14.1%、「友達から借りる」と回答した生徒の割合が8.5%となっている。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「自分で買う」と回答した生徒の割合がすべての学年において最も高く、高校生全体では63.2%で、「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が16.5%、「友達から借りる」と回答した生徒の割合が8.7%となっている。

【グラフ6】



【資料】 子どもたちの読書活動を推進していくために

今回の調査結果を踏まえ、学校図書館の目的や役割を再認識し、学校図書館のさらなる利活用を図り、子どもたちの読書活動を推進していくことが望まれます。

1 学校図書館の目的・役割

(1) 児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能 《児童生徒の「読書センター」としての学校図書館》

学校図書館は、児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を果たします。



《児童生徒の「学習・情報センター」としての機能》

学校図書館は、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能を果たします。

(2) 教員のサポート機能



学校図書館の計画的な利用とその機能の活用（学習指導要領（総則）は、各教科等を通じ、どの教員にも求められます。指導の改善・充実のため、それぞれの教員が、学校図書館の機能を有効に活用するスキルを身に付けていくことが大切です。

一方、学校図書館法において、学校図書館は、教員のために図書館資料の収集・整理・保存、供用を行う施設としても位置付けられています。

教科等指導のための研究文献や教師向け指導資料、教材として使える図書などを集めて教員が使えるようにしたり、こうした図書資料のレファレンスや取り寄せ等のサービスを行ったりする教員のサポート機能も、学校図書館が本来行うべき重要な役割の一つです。

(3) その他の機能

ア 子どもたちの「居場所」の提供

昼休みや放課後の学校図書館は、教室内の固定された人間関係から離れ、児童生徒が一人で過ごしたり、年齢の異なる様々な人々とのかかわりを持つことができる場となります。児童生徒がこのような学校図書館を、校内における「心の居場所」としていることも少なくありません。

また、放課後の学校図書館は、放課後の子どもたちに安全・安心に過ごせる場を提供することにもなっています。

イ 家庭・地域における読書活動の支援

学校図書館を、学校の児童生徒や教員だけでなく、地域住民全体のための文化施設として有効に活用できるようにすべきとする要請も多くなっています。このような要請の下、例えば、下記のような取組を通じ、地域における読書活動の核として、学校図書館の施設等やその機能の活用を図っている例もあります。

- ・ 家庭と連携して読書活動を進めるため、親子貸出しの実施など、保護者等の学校図書館利用を可能とする取組
- ・ 学校図書館を地域住民全体の文化施設と位置付け、放課後や週末に、他校（他校種の学校）の児童生徒や地域の大人にも開放する取組



2 読書活動の充実に向けて

(1) 各校における読書活動等への取組状況

平成25年度の取組についての調査結果を下表にまとめました。昨年度の「学校図書館の現状に関する調査」結果と比較すると、各学校がおおむね読書活動に積極的に取り組んできたことがうかがえます。

各学校における読書活動等への取組状況

(%)

調査項目	小学校	中学校	高等学校
全校一斉の読書活動を実施している学校の割合	96.8 (96.0)	80.3 (78.8)	28.4 (29.5)
多様な読書活動推進の取組を実施している学校の割合	99.8 (97.7)	93.9 (89.4)	76.1 (64.8)
ボランティアを活用している学校の割合	76.8 (71.0)	13.2 (10.6)	2.3 (4.5)
公共図書館との連携を実施している学校の割合	74.4 (71.4)	32.0 (27.5)	56.8 (56.8)
学校図書館図書標準の達成状況	82.2 (78.6)	61.4 (62.3)	
蔵書のデータベース化の状況	59.4 (52.6)	56.1 (55.1)	58.0 (58.0)

()は平成24年度「学校図書館の現状に関する調査」文部科学省 福島県調査結果

全校一斉の読書活動の実施については、いずれの学校種においても、朝の時間に取り組んでいる学校数が最も多いという結果でした。

また、読書活動推進の取組は、右表のように学校種により力を入れている内容が異なっている様子が見られました。

多様な読書活動推進の取組状況

	小学校	中学校	高等学校
学校数	465	228	88
実施あり	464	214	67
図書の読み聞かせ ブックトーク	431	43	6
読書感想文コンクール	266	130	18
必読書・推薦図書コーナー の設置	309	137	42
目標とする読書量の設定	212	40	4
その他	86	47	21

(複数回答可)

(2) 定期的な図書の更新を

傷んだ図書は更新の対象となります。また、自然科学や工業、医学、経済をはじめ、社会情勢などめまぐるしく変化していることから、出版された時点で情報がすでにやや古い情報になっている場合があります。

児童生徒が頻繁に図書を活用して、学習活動を行ったり、読書をしたりしているとすれば、当然図書は傷んできます。「廃棄するような古い本や傷んだ本がない」ということは、本を大切に扱っているので傷まない、一見喜ばしいことのように思えるのですが、見方を変えると、学校図書館が児童生徒にどの程度活用されているのだろうかという疑問にも感じられます。

また、図書の冊数の確保を優先にしているため（学校図書館図書標準を満たすために）廃棄できないとすれば、それは本末転倒です。

学校図書館は、学校図書館法にも規定されているとおり、「学校の教育課程に寄与する」ものです。常に新鮮な図書が必要になります。保存を第一の目的とする保存図書館ではありませんから、学校図書館で保存しなければならない図書は、自校の校史、郷土史、年鑑、貴重書等を除けば、それほど多くはありません。定期的に図書の更新を行い、学校図書館の新陳代謝をよくしましょう。

時間と手間をかけないで作業の工夫を

【例1】 ある学校では、司書教諭が廃棄基準をもとに廃棄対象となる図書を選び出し、図書館の机の上に並べておき、一定の期間内に各教科の担当者に見てもらい、廃棄しないでほしい図書を選び出してもらう。そして、期間を過ぎて残ったものを廃棄するという方法を取っている。

【例2】 ある学校では、教科主任や教科担当に来館してもらい、関係する書架で払い出す必要のある図書に付せんを貼ってもらい、その図書について廃棄基準と照らして廃棄するという方法を取っている。

(3) 読書指導は国語教師だけの仕事？

読書指導は国語教師だけの仕事でしょうか。また、児童生徒の「自主性が大切だから」と、教師が何もしていないことは自発的な読書へ誘うことになるのでしょうか。お題目のように「本を読みなさい」と繰り返したり、児童生徒の興味・関心に合わない本を「名作だから」と紹介しても彼らの心には響かないと考えられます。



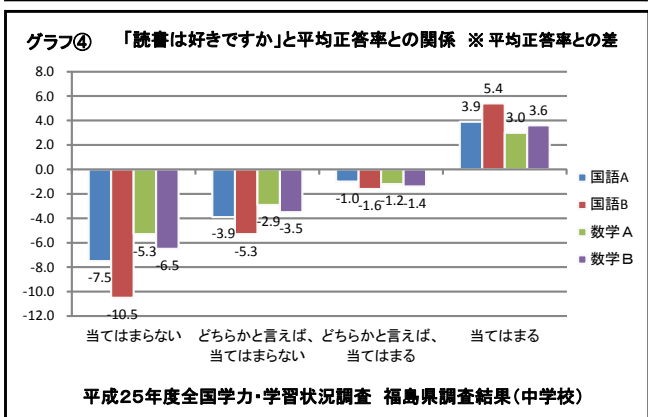
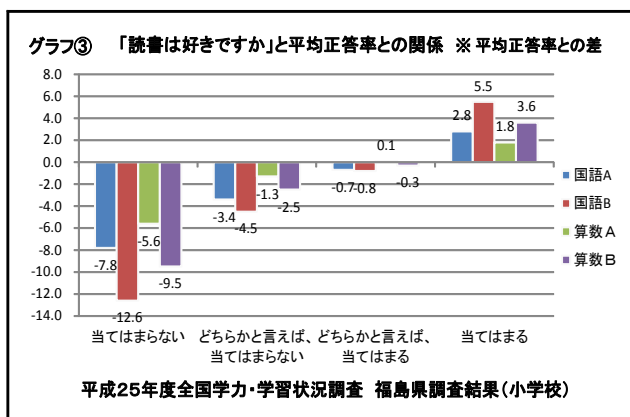
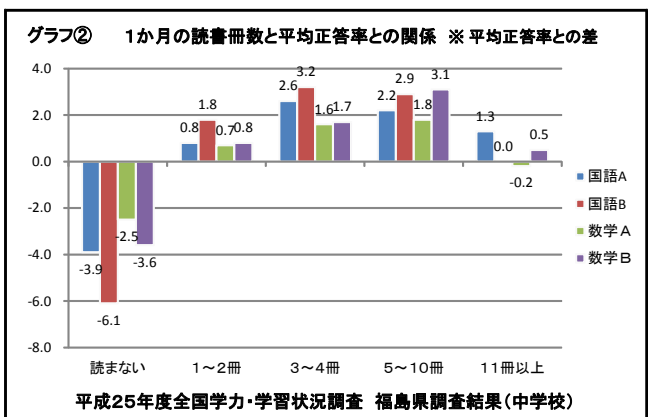
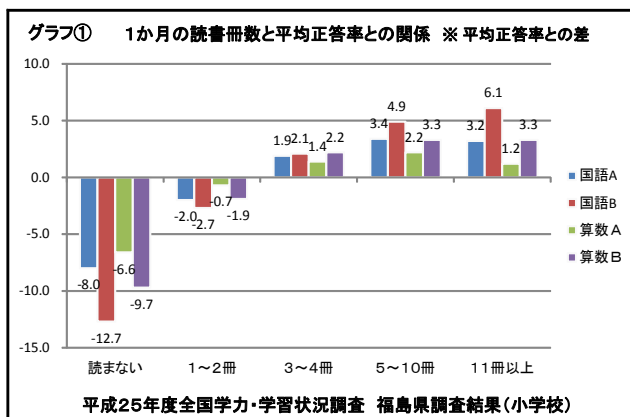
まずは児童生徒の興味・関心をよく理解し、最新の出版事情を知って適書を紹介したり、各教科等の学習に関連のある本について魅力的に語ったりするなどして、児童生徒を本の世界に誘うことはすべての教師に求められています。

読書指導は、本の紹介だけに止まりません。児童生徒の一人一人の読書の傾向や実態を把握して、それぞれに合った指導をしていくことが大切です。ある学校では、①本を借りない(少ない)。②本を借りてはいるが、期日までに返せない。③本を借りてはいるが、極端に偏っている。(等)の観点を設けてその子どもに合った指導をしています。各学校においてどのような読書指導を推進していくことが必要かを改めて確認することも重要ではないでしょうか。

(4) 読書と学力の関係について

下表は、平成25年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙「1か月の読書冊数」と各科目の得点とのクロス集計結果を表したグラフです。小中学校ともに読書冊数が多いほど各科目の得点も高くなる傾向が見られます。(グラフ①②) また、「読書は好きですか」という質問に対して肯定的な児童生徒ほど、各科目の得点が高い傾向も見られました。(グラフ③④) 特に、「当てはまる」と回答した児童生徒の各科目の得点が高くなる傾向が見られます。

各教科等において言語活動の充実が求められています。指導計画に学校図書館の活用計画を適切に位置付けるとともに、学校ぐるみの読書活動を推進するなどして児童生徒の読書を日常化していくことが、結果として学力を高めることにもつながっていくと考えられます。



また、「新聞を読んでいますか」という質問項目について、「ほぼ毎日読んでいる」児童生徒の各科目の得点が高い傾向を示しています。学校図書館への新聞の配備にも意を用いたいものです。

一方、平成25年度福島県学力調査結果においても、読書冊数の多い児童生徒が教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

(5) 学校全体で取り組む多様な読書活動の推進について

次のHPでは、平成22年度からの子どもの読書活動優秀実践校に対する文部科学大臣表彰を受けた学校等の優れた事例を紹介しています。福島県はもとより、全国の学校の事例を閲覧することができますので、是非参照してください。

・文部科学省 [子どもの読書情報館](#)

また、授業での学校図書館の活用事例は、以下が参考になります。学校種、教科・領域などから授業での実践例を検索することができますようになっています。

・東京学芸大学学校図書館運営専門委員会 [先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース](#)



(6) 第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について

昨年5月に、国による第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が示されました。この計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき策定されるものです。

以下にその抜粋を示します。

○ 第二次基本計画期間における取組と課題

[第二次基本計画期間における取組・成果]

◆ 学校等における取組

- ① 全校一斉の読書活動を行う学校の割合が増加した。
- ② 司書教諭の発令は、12学級以上のほとんどの学校で行われている。
- ③ 学校図書館担当職員（いわゆる学校司書）を配置する学校の割合が小学校、中学校においては増加傾向にある。

[第二次基本計画期間における課題]

- ① 学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向
学校段階が進むにつれ読書離れが進む傾向にあることから、とりわけ、中学生・高校生の世代に関して、読書活動を促す取組を更に進めることが重要である。
- ② 地域における取組の差が顕著
文部科学省の調査によると、小学校一校当たりの図書購入費（年間）の平均額を都道府県別に比較すると、最低21万円から最高77万円（平成22年度）と約56万円の開きが見られるなど、地域間の差が顕著となっている。
- ③ 学校図書館資料の整備が不十分
「平成24年度学校図書館の現状に関する調査」（文部科学省）によると、平成23年度末は、小学校で56.8%、中学校で47.5%であり、多少改善されているものの、依然として、約5割にとどまっている。

○ 学校等における子どもの読書活動の推進

[学校における子どもの読書活動の推進のための取組]

各学校においては、言語活動の充実を図る学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等において学校図書館の活用を拡大し、言語に関する能力の育成や、人間形成や情操の涵養に重要な読書活動を推進することが要請される。このような認識を学校全体で共有し、様々な文章や資料を読んだり調べたりするなど多様な読書活動を各教科等の指導計画に位置付けることにより、国語科を中核としつつ、全ての教科等を通じて、児童生徒の発達の段階に応じた体系的な読書指導を推進する。

・文部科学省 [「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」\(本文\)](#) [\(関係資料\)](#)

《参考資料・文献》

「これからの学校図書館の活用の在り方等について（報告）」 子どもの読書サポーターズ会議
「その蔵書、使えますか？ 図書の更新のすすめ」 竹村和子 著 全国学校図書館協議会
「第62回福島県学校図書館研究大会 北会津大会要項」 福島県学校図書館協議会
「学校図書館（No. 757）」 公益財団法人 全国学校図書館協議会

平成25年度「読書に関する調査」集計表 ～ 11月の1か月間に本を何冊読んだか～

平成26年3月 義務教育課
(人)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学生計	割合(%)	中1	中2	中3	中学生計	割合(%)	高1	高2	高校生計	割合(%)
調査人数		11,293	11,247	11,869	12,339	12,570	13,075	72,393		8,739	9,055	9,344	27,138		4,160	4,015	8,175	
読書冊数(1か月当たり)	読まない	83	79	168	178	283	329	1,120	1.5	835	1,211	2,384	4,430	16.3	2,011	1,994	4,005	49.0
	1冊程度	253	249	485	542	943	1,150	3,622	5.0	1,689	2,371	2,446	6,506	24.0	861	884	1,745	21.3
	2冊程度	332	299	650	653	1,447	1,635	5,016	6.9	2,000	2,103	1,920	6,023	22.2	518	503	1,021	12.5
	3冊程度	437	441	778	960	1,608	1,978	6,202	8.6	1,635	1,408	1,082	4,125	15.2	318	255	573	7.0
	4冊程度	475	519	851	1,022	1,516	1,620	6,003	8.3	866	679	451	1,996	7.4	123	94	217	2.7
	5冊程度	578	634	1,069	1,277	1,480	1,462	6,500	9.0	592	423	363	1,378	5.1	103	100	203	2.5
	6冊程度	475	546	832	878	1,023	984	4,738	6.5	326	217	168	711	2.6	38	42	80	1.0
	7冊程度	460	542	670	759	759	782	3,972	5.5	195	152	126	473	1.7	38	15	53	0.6
	8冊以上	8,200	7,938	6,366	6,070	3,511	3,135	35,220	48.7	601	491	404	1,496	5.5	150	128	278	3.4
	合計読書冊数		188,788	185,283	132,319	120,701	83,284	77,003	787,378		27,518	23,467	19,598	70,583		6,665	5,719	12,384
平均読書冊数		16.7	16.5	11.1	9.8	6.6	5.9	10.9		3.1	2.6	2.1	2.6		1.6	1.4	1.5	
読まない理由	勉強等で忙しい	12	16	37	6	24	22	117	10.4	97	156	869	1,122	25.3	187	228	415	10.4
	部活動で時間がない	0	0	9	3	11	12	35	3.1	102	78	15	195	4.4	399	340	739	18.5
	テレビが楽しい	3	3	4	8	18	28	64	5.7	50	80	112	242	5.5	129	120	249	6.2
	ゲームが楽しい	5	12	18	37	43	54	169	15.1	79	128	107	314	7.1	148	123	271	6.8
	マンガ等が楽しい	3	8	39	30	71	93	244	21.8	196	268	541	1,005	22.7	391	424	815	20.3
	遊びが楽しい	29	15	20	32	45	43	184	16.4	48	61	121	230	5.2	148	105	253	6.3
	どんな本を読んでいいかわからない	17	3	8	15	12	17	72	6.4	36	43	121	200	4.5	78	89	167	4.2
	読まなくても困らない	4	1	8	6	15	13	47	4.2	49	132	248	429	9.7	223	235	458	11.4
	本が嫌い	3	6	12	20	31	28	100	8.9	109	162	165	436	9.8	137	125	262	6.5
その他	7	15	13	21	13	19	88	7.9	69	103	85	257	5.8	171	205	376	9.4	
読書のきっかけ	友人に紹介された	450	443	443	480	522	641	2,979	4.2	605	798	777	2,180	9.6	213	180	393	9.4
	家族に紹介された	705	637	537	513	483	479	3,354	4.7	467	319	288	1,074	4.7	93	77	170	4.1
	先生に紹介された	678	307	334	288	244	482	2,333	3.3	101	115	94	310	1.4	24	36	60	1.4
	教科書に載っていた	468	583	335	263	167	264	2,080	2.9	42	35	43	120	0.5	7	6	13	0.3
	学校の図書館で見つけた	7,058	6,738	7,030	6,899	6,141	5,430	39,296	55.1	1,340	905	765	3,010	13.3	277	277	554	13.3
	公共の図書館で見つけた	937	1,294	1,303	1,278	1,352	923	7,087	9.9	335	229	308	872	3.8	61	58	119	2.9
	本屋で見つけた	535	622	908	1,542	2,511	3,539	9,657	13.5	4,192	4,520	4,026	12,738	56.1	1,052	920	1,972	47.3
	新聞・雑誌等で見た	54	80	111	138	191	291	865	1.2	354	468	356	1,178	5.2	147	164	311	7.5
その他	325	464	700	760	676	697	3,622	5.1	468	455	303	1,226	5.4	275	303	578	13.9	
本を手に入れた方法	学校の図書館を利用	8,531	7,844	7,893	7,388	6,544	6,077	44,277	62.1	1,381	947	874	3,202	14.1	334	356	690	16.5
	公共の図書館を利用	1,096	1,347	1,314	1,371	1,308	989	7,425	10.4	383	197	245	825	3.6	89	94	183	4.4
	友達から借りる	100	108	161	212	362	494	1,437	2.0	478	723	737	1,938	8.5	175	186	361	8.7
	自分で買う	1,138	1,368	1,574	2,380	3,339	4,404	14,203	19.9	5,064	5,476	4,756	15,296	67.4	1,394	1,241	2,635	63.2
	その他	345	501	759	810	734	782	3,931	5.5	598	501	348	1,447	6.4	157	144	301	7.2